

ともに働けることが喜びであり誇り

私は職人が大好きだ。自分も職人と思っているからだ。もう五十年にわたって建築設計を生業としているが、それ以前に、昼は大工、夜は塗装や映画館の看板を描く職人だった時期が

私の職人論

ともに生き、ともにつくる^①



本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室主宰

建築家 本間 利雄さん

あった。当時の辛かったこと、楽しかったことなど、いまも忘れられない。私の右手の指先には鉛筆だ、左手の指先には職人時代に間違っただけの跡がある。設計図を書きまくった手と、職人の手。それぞれがひそかな誇りでもあ

職人の恩恵を忘れてはいけぬ

週2日、2年間顔を合わすだけなのに、年齢も職場も環境もまったく違う生徒たちと先生が、ここまで打ち解けあい生き生きしている。初めて修了式を取材したときは新鮮な驚きを覚えた。式では修了生が一言ずつ話すが定番だが、涙を浮かべる者、2年間応援してくれた雇用主や妻子に感謝の言葉を贈る者などさまざまだ。

以前には設計事務所の一室を工作室にして、大工の道具類を揃え、スタッフに大工の初歩の技術を教えるよう考えたことがあった。しかし設計の仕事が忙しく時間をとれずに、目的を果たすことはできなかった。現在スタッフに大工棟梁の経験者が一人いる。若いスタッフに、大工職人の立場から仕事を教えている。先日、私は現場で改装工事の柱を磨いた。柱の汚れをとるためにサンドペーパーを使って汚れを落とす。

設計者も一緒に作業していることに、傍らの職人が興味をもって眺めていた。「俺も若いとき職人の経験がある」と語りかけた。職人と一緒に作業できることは、私のよこびである。誇りでもある。私はスタッフに、職人のよこびや苦労をよく語ってきかせている。自分の経験からのもので、大学の教育では教えてくれないことを。私も建築家は職人の恩恵の上に成り立っていることを忘れてはいけぬと思う。

友人の千歳栄さんの「職人の詩」を紹介したい。

- 一 職人は口数が少ない
思つことを形にするために
人が見ようが見まいが
時間など気にせず働く
只黙々と働く
- 二 職人は仕事が好きだ
鋭い感性で技を磨き
つくるもの一つになり
道具を手のようにして作る
納得するまで作る
- 三 職人は暮しをつくる
地域文化も 民族の文化も
職人の手でつくれる
人々の暮しに潤いを与える
職人こそ民族の宝だ

——山寺南院の建築を終えて

とはいえ、働きながら学ぶのは大きな負担であり、本人の意思だけでなく雇用主の理解も必要だ。それでも片道2時間近くをかけて鎌倉から通い続け皆勤賞をもらった者や、やむを得ない事情で一度は退学し、再入学

負人（下位の下請負人を含む）に雇用される労働者が、業務上または通勤途上災害により死亡、身体障害1級から7級または傷病1級から3級のいずれかに該当した場合に、共済金を支払う契約です。

(財)建設業福祉共済団
電話03-3591-8451
<http://www.kyousaidan.or.jp>



環境を創造する

7550-0012 大阪府南区立寄塚4-11-14
tel (06)4391-1781 fax (06)4391-1806

首謀り手人しかつ書意まで